

残留農薬分析をもっと迅速・簡単に

残留農薬分析Webinar

この度、東海コープ事業連合・斎藤先生 と株式会社アイスティサイエンス様との共催にて、残留農薬分析の前処理・分析ノウハウをご紹介しますWebinarを実施することになりました。この機会にぜひお申込みくださいませ！



聴講
無料

日程

2021年**8月25日**(水)

時間

開場**13:15**
開演**13:30~16:00頃**

ツール

Zoom Webinar

お申込みは**Webへ!**

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_9vQIEI0ITMq_b5tCwY-Qgg



※ご提供いただいた個人情報は、展示会・学会・セミナーや新製品等のご紹介、各種情報提供に利用させていただきます。詳細は下記URLのWEBのプライバシーポリシーをご参照ください。 <https://www.shimadzu.co.jp/attention/privacy.html>

こちらのQR
コードから
申込ページへ!

お申込み

WEBよりお申込みください。
申込後すぐに、登録したメールアドレス宛に申込確認およびウェビナー当日の入室用URLが記載されたメールが自動送信されます。



※メールが届かない場合は、メールアドレスに間違いはないか、迷惑メールフォルダに入っていないかをご確認ください。
※セキュリティの関係で、メール本文に視聴用URLが正常に表示されない場合がございます。その際はお手数ですが下記問い合わせ先までご連絡ください。
※当日欠席の際の事前連絡は不要です。

講演内容

13:30~13:35	ご挨拶
13:35~14:05	食品中残留農薬分析の現状と将来 21世紀に入って、2001年中国輸入冷凍ほうれん草から基準値を超える農薬クロルピリホスが検出されるケースが相次ぎ、14年7月から輸入自粛措置、2002年無登録農薬ダイホルタンなどの違法使用、2006年残留農薬などのポジティブリスト制度の導入、2008年中国製冷凍ギョーザによる有機リン中毒事件、中国産加工食品にメラミンの混入、2013年国内製造冷凍食品から有機リン剤検出など食品中残留農薬にかかわるいろいろな事件、事故が発生しました。そういった背景を受けて残留農薬分析の在り方も大きく変わってきました。2006年のポジティブリスト制度移行に伴い基準値のない作物では原則として一律基準0.01ppmが適用されることとなり、すべての食品で多くの農薬を対象とする多成分一斉分析が主流となってきました。その分析法の成り立ち、今後スクリーニング法を含め、日々技術革新が進む機器・装置を有効活用しながら、どのように日々の業務にかかわっていったらいいかを紹介いたします。 生活協同組合連合会東海コープ事業連合 管理本部 商品検査センター 技術顧問 齋藤 勲 様
14:05~14:35	残留農薬分析をより効率的に ~アイスティサイエンスから自動化のご提案~ 働き方改革やコロナ禍で働き方が多様化する中、残留農薬分析でも限られた人員や時間の中で効率化が求められています。アイスティサイエンスでは「簡便・迅速・高精製」であるSTQ法においても固相抽出を自動化することで更なる効率化をご提案しています。本Webinarでは自動化のメリットや分析例を中心に昨秋リリースしたオンラインSPE-LC-GCシステムを用いた分析例についてもご紹介します。この機会に残留農薬分析の効率化を考えてみませんか？ 株式会社アイスティサイエンス 島 三記絵 様
14:35~15:05	ここまでできる！トリプル四重極型GC-MS/MSを用いた残農分析ソリューション ポジティブリスト制度移行後、様々な作物に対して多く残留農薬をモニタリングする必要が出てきました。それに伴い、分析機器のセットアップ、最適化、メンテナンスの重要性が増し、精度の良い分析には不可欠な要素となっています。島津製作所製のGC-MS/MSと各種データベースは、これら一連の作業を幅広くサポートし、精度の高い残留農薬分析を継続的に提供します。 株式会社島津製作所
15:05~15:35	ここまでできる！トリプル四重極型LC-MS/MSを用いた残農分析ソリューション 近年、残留農薬分析においては、装置の普及によりLC-MS/MSを用いて測定する成分がより増加し、また精度管理の観点から検体数が多くなる傾向にあり、条件構築や解析にも多くの労力がかかります。島津製作所の質量分析計は高速性能に優れており多成分同時分析に最適です。中でもLCMS-8060NXは高感度・堅牢性に優れており夾雑成分が多い食品試料にも最適なシステムです。更に多くの成分を網羅した残留農薬・動物用医薬品のメソッドパッケージや効率よく解析を行うためのソフトウェア等をご用意し、皆様の分析業務をサポートいたします。 株式会社島津製作所
15:35~15:50	質疑応答

お問合せ

株式会社島津製作所 Webinar運営チーム 担当：岡田
Mail : y-okada@shimadzu.co.jp